

盛岡の民俗芸能

念仏剣舞の魅力



知る

念仏剣舞は、先祖や亡くなった人の供養、悪霊をはらうための踊りです。約800年前の鎌倉時代に全国に広まった踊り念仏が、芸能の色合いを強めながらも、伝統を守りつつ踊り継がれてきました。岩手には北上市の鬼剣舞などさまざまなありますが、盛岡で踊られてきたのは「大念仏剣舞」と「高館剣舞」の2種類で、現在8団体（3ページの表のとおり）が活動しています。



大念仏剣舞
仏を供養し、浄土を求める気持ちの強い念仏剣舞といわれています。踊りは、大笠振りが中心となります。華やかな大笠が念仏に合わせてゆっくり回る様を見て、人々は極楽浄土を目の当たりにする思いだったのでしょう。



高館剣舞
阿修羅踊りともいわれます。邪気を払うといわれる「反閃」という地面を強く踏みしめる所作を行い、刀を使うことで悪霊を鎮める色合いが濃いことから、戦いの士気を高めるためや戦いで滅ぼされた死者の魂を慰めるために踊られたといわれています。

紡ぐ

念仏剣舞は、どの団体も後継者不足で悩んでいます。伝統を紡ぐには、若い力が必要。では、魅力はどこなところ？ 実際に取り組んでいる人に聞きました。

地域の絆に感謝！



釘ノ平念仏剣舞保存会 中島静香さん

釘ノ平念仏剣舞では、踊り手の元気の良さや反閃の力強い躍動感を見てほしいですね。踊り終わる頃には足がガクガク震えるほど一生懸命です。今は踊り手が小学6年から高校3年生までの5人だけで、正直続けていくのは厳しい。でも、この子たちが「やりたい」と言ってくれる限り、続けていきたいと思っています。念仏剣舞は私1人ではできません。踊り手やお囃子（はやし）など、参加してくれる地域の皆さんとの絆に感謝です。

郷土愛が育まれます



乙部中学校 校長 田口秀樹さん

わが校では、手代森念仏剣舞や法領田獅子踊りなど、学区内4地区の郷土芸能7種類を郷土芸能発表会で地域に披露しています。地域の人も郷土芸能を伝えていくことを喜んでくれますし、何より郷土を愛する気持ちが育まれたり、ふるさとの良さを再発見したりと生徒たちのいい経験になっていると思います。保存会の人に丁寧に教えてもらおううちに楽しさに目覚め、保存会に加入して続ける生徒もいます。地域と一体になれる貴重な取り組みなのでこれからも続けていきたいです。



練習風景などの取材写真を市公式ホームページで公開中！



過去の演舞（上）と踊り手に指導する中島さん（右）



洗練されていくところが魅力



市無形民俗文化財保存連絡協議会 顧問 藤沢清美さん

大念仏剣舞は大笠振りの迫力と厳肅さ、高館剣舞は勇まじさが魅力です。宗教色が強いと思われがちですが、根っこにあるのは人々の祈りや願い。昔は、踊りを奉納することで心が救われたのでしょうか。また、娯楽の一面もあります。踊りで鬱積（うっせき）を発散させ、働くエネルギーを得たのでは。他の民俗芸能にも言えますが、年月を経て、踊りはどんどん洗練されてきています。伝統を受け継ぎつつ、その時代ならではの息吹も入る。こんなに面白いものはないですよ。

国指定重要無形民俗文化財 永井の大念仏剣舞

寛政年間（1789年～1801年）に、現在の庭元（地主）の祖先が南日詰（現在の紫波町）から家督を継ぐ養子として来た時に巻物とともにこの踊りを持ってきたのが始まりとされ、永井地区で代々踊り継がれています。3階建ての仏塔を乗せた大笠は阿弥陀堂を表しています。念仏を唱えながら華やかに踊る様子は中世に流行した「風流踊り」の特色を残しており、芸能史でも価値が高いことから、昭和55年1月28日に国指定重要無形民俗文化財に指定されました。

永井の大念仏剣舞は、笛や太鼓など総勢二十数人で踊ります。不定期で庭元の家や寺で奉納演舞をしています。演目は次のとおりで全部で30～50分の構成です。



◀揺らして音を奏でる木製打楽器。同保存会のものには、数十枚の札状の板1枚1枚に「南無阿彌陀仏」と書かれている

- 1 道行**
歩きながら太鼓を打つ。屋敷に招かれた場合、太夫※1は回向※2を歌いながら、門や灯籠、庭を褒める。これは招かれたことに対する礼儀。
- 2 入羽／中羽／引羽**
全22曲の中から、各演目で1曲ずつ3曲を輪になって踊る。これを一庭という。
- 3 中入**
座敷に上がり、仏壇前で回向を歌い、終わったら庭に出る。仏壇がない場合やステージ公演では省く。
- 4 笠振り**
大笠だけの舞。永井の大笠は約20センチあり、約3分間の舞はかなり大変！
- 5 廻り胴**
2人または4人組になり、太鼓の周りを廻りながら打つ。運動量が多く苦しい演目だが、舞い手の動作がそろって美しくと迫力が増す。
- 6 礼踊り**
踊り手が2列に並び、家主や観客に向かって踊る。最後は一礼し、踊りは終了。



※1 団体の代表格。全体をまとめる役割
※2 褒め歌。死者の成仏を祈る意味もある

観る

毎年、各団体が日頃の練習の成果を披露する郷土芸能フェスティバルが開催されています。多くの民俗芸能を一度に見ることができる機会です。ぜひ会場へどうぞ

青少年郷土芸能フェスティバル

【日時】8月26日(日)13時～15時半
【場所】ホットラインサカナチョウ（肴町アーケード街）
【費用】無料
【出演団体】釘ノ平念仏剣舞保存会や大宮神楽保存会など6団体

もりおか郷土芸能フェスティバル

【日時】①9月23日(日)10時～16時②2月24日(日)10時～16時
【場所】①キャラホール（永井24）②市民文化ホール大ホール（盛岡駅西通二）
【費用】前売り800円・当日1000円（中学生以下無料）【出演団体】①永井大念仏剣舞保存会や上鹿妻念仏剣舞保存会など11団体②釘ノ平念仏剣舞保存会など12団体

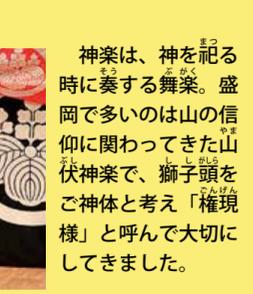
郷土芸能を次世代へ

先人が紡いできたその土地ならではの郷土芸能。絶やさず次世代に繋げたいものです。一度飛び込んでみれば、その魅力に取りつかれるかもしれません。念仏剣舞の各団体の連絡先を知りたいときは、歴史文化課へ気軽にお問い合わせください。

地域	団体名
川又	釘ノ平念仏剣舞保存会
新庄字銭掛	銭掛念仏保存会
上鹿妻	上鹿妻念仏剣舞保存会
手代森	手代森念仏剣舞保存会
永井	永井大念仏剣舞保存会
築川	築川高館剣舞保存会
大ケ生	高江柄念仏剣舞保存会
	大ケ生高館剣舞保存会

他にもあります！

●神楽
神楽は、神を祀る時に奏する舞。盛岡で多いのは山の信仰に関わってきた山伏神楽で、獅子頭をご神体と考え「権現様」と呼んで大切にしてきました。



◆田植え踊り



米の豊作を祈る踊り。狂言なども取り込んだ複合的な芸能です。ヒョットコの面を付けた道化役の一八と太鼓を打つ胴前が、掛け合いをしながら米作りの作業を展開して見せます。



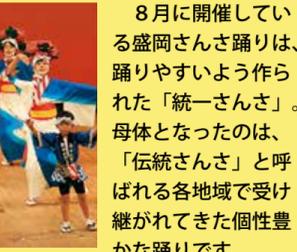
★念仏剣舞 ▲都南太鼓

■獅子（鹿）踊り



獅子や鹿をかたどった頭をかぶり、供養や五穀豊穡の祈りを込めて踊ります。頭を振るなど激しい動きが多く、雌のシシを巡って雄同士が争う場面が見どころです。

▼さんさ踊り



8月に開催している盛岡さんさ踊りは、踊りやすいよう作られた「統一さんさ」。母体となったのは、「伝統さんさ」と呼ばれる各地域で受け継がれてきた個性豊かな踊りです。

9月1日号の特集テーマは「こみを減らしてふるさとを未来へつなぐ」です。